

あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)及び  
あかしSDGs前期戦略計画(明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期))の推進状況について

1 計画の概要

あかしSDGs推進計画 (明石市第6次長期総合計画) 【理念方針】	<b>SDGs未来安心都市・明石</b> ～いつまでも すべての人にやさしいまちを みんなで～						
	2030年度の目標 <b>住みやすいと思う人の割合 100% 人口 30万人</b>						
	<b>三側面の統合的なまちづくり</b>						
あるべき姿 まちづくりの方向性	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="background-color: #4a86e8; color: white;"><b>経済</b></td> <td style="background-color: #f1c40f; color: white;"><b>社会</b></td> <td style="background-color: #7ed321; color: white;"><b>環境</b></td> </tr> <tr> <td>にぎわいと活力が持続するまち</td> <td>すべての人が助け合い安心して暮らせるまち</td> <td>人にも自然にも地球にもやさしいまち</td> </tr> </table>	<b>経済</b>	<b>社会</b>	<b>環境</b>	にぎわいと活力が持続するまち	すべての人が助け合い安心して暮らせるまち	人にも自然にも地球にもやさしいまち
<b>経済</b>	<b>社会</b>	<b>環境</b>					
にぎわいと活力が持続するまち	すべての人が助け合い安心して暮らせるまち	人にも自然にも地球にもやさしいまち					
計画期間 2022 2030	<b>行政運営の基本姿勢</b> ① 市民主体のまちづくり ② 更なる権限と責任に基づく持続可能で自立した行政運営 ③ ICTの活用等による市民サービスの向上						



あかしSDGs前期戦略計画 (明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)) 【具体的な施策・目標】	2025年度の目標 <b>住みやすいと思う人の割合 95% 人口 30万人</b>															
	<b>施策展開の5つの柱</b>															
	<b>展開の方向</b>															
施策展開の柱	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="background-color: #4a86e8; color: white;"><b>柱①</b></td> <td style="background-color: #4a86e8; color: white;"><b>柱②</b></td> <td style="background-color: #4a86e8; color: white;"><b>柱③</b></td> <td style="background-color: #4a86e8; color: white;"><b>柱④</b></td> <td style="background-color: #4a86e8; color: white;"><b>柱⑤</b></td> </tr> <tr> <td>豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める</td> <td>笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる</td> <td>こどもの育ちをまちのみんなで支える</td> <td>安全・安心を支える生活基盤を強化する</td> <td>まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す</td> </tr> </table>	<b>柱①</b>	<b>柱②</b>	<b>柱③</b>	<b>柱④</b>	<b>柱⑤</b>	豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める	笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる	こどもの育ちをまちのみんなで支える	安全・安心を支える生活基盤を強化する	まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す					
<b>柱①</b>	<b>柱②</b>	<b>柱③</b>	<b>柱④</b>	<b>柱⑤</b>												
豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める	笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる	こどもの育ちをまちのみんなで支える	安全・安心を支える生活基盤を強化する	まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す												
展開の方向	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>1 脱炭素社会の実現</td> <td>2 循環型社会の実現</td> <td>3 自然環境の保全と活用</td> <td>1 支え合う地域づくり</td> <td>2 自分らしく生きることが出来る社会づくり</td> <td>3 健康・長寿の推進</td> <td>1 安心して子育てができる環境の整備</td> <td>2 一人ひとりに応じた質の高い教育の推進</td> <td>3 子どもの状況に応じた適切な支援</td> <td>1 防災・感染症対策の強化</td> <td>2 日常の安全・安心の確保</td> <td>3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備</td> <td>1 地域産業の振興</td> <td>2 豊かな心を育む文化・芸術の推進</td> <td>3 賑わいの創出</td> </tr> </table>	1 脱炭素社会の実現	2 循環型社会の実現	3 自然環境の保全と活用	1 支え合う地域づくり	2 自分らしく生きることが出来る社会づくり	3 健康・長寿の推進	1 安心して子育てができる環境の整備	2 一人ひとりに応じた質の高い教育の推進	3 子どもの状況に応じた適切な支援	1 防災・感染症対策の強化	2 日常の安全・安心の確保	3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備	1 地域産業の振興	2 豊かな心を育む文化・芸術の推進	3 賑わいの創出
1 脱炭素社会の実現	2 循環型社会の実現	3 自然環境の保全と活用	1 支え合う地域づくり	2 自分らしく生きることが出来る社会づくり	3 健康・長寿の推進	1 安心して子育てができる環境の整備	2 一人ひとりに応じた質の高い教育の推進	3 子どもの状況に応じた適切な支援	1 防災・感染症対策の強化	2 日常の安全・安心の確保	3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備	1 地域産業の振興	2 豊かな心を育む文化・芸術の推進	3 賑わいの創出		
計画期間 2022 2025	主要施策とKPIを設定 <b>効率的・効果的な行政運営</b> ① SDGsの更なる推進 ② 持続可能で自立した行政経営															

## 2 推進状況の検証

### (1) 検証の方法

- ・ あかし SDGs推進計画では、まちづくりの基本構想として、2030 年のあるべき姿を「SDGs未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」と定め、まちづくり全体の推進状況を計る 2030 年度の数値目標として、「明石のまちが住みやすいと思う人の割合 100%」「目標人口 30 万人」を定めています。
- ・ あかし SDGs前期戦略計画は、推進計画に基づく中期計画として、まちづくり全体の推進状況を計る 2025 年度の数値目標を定めています。  
また、施策展開の5つの柱や優先的に取り組む具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)を定めています。
- ・ また、前期戦略計画及び個別計画に基づいて実施する具体的な事務事業については、実行計画として年度ごとに策定し、実施しています。
- ・ そこで、以下の視点に基づき、3点から検証を行っていきます。

- ◆2030 年のあるべき姿の実現に向けて進んでいるか(まちづくり全体の推進状況)。
  - ① まちの住みやすさや愛着度、定住意向についての市民意識の分析
  - ② 目標人口の実現に向けた人口動向の分析
- ◆前期戦略計画に掲げる施策展開の5つの柱に沿った効果的な施策が展開されているか。
  - ③ 主な新規・拡充施策の実施状況とKPIの進捗状況

- ・ ②③は毎年度実施し、①は 2025 年と 2030 年に実施します。
- ・ 2025 年度と 2030 年度には推進状況について総括し、それぞれ中間評価と最終評価を行います。
- ・ 毎年度、市民や各種団体代表、学識経験者などで構成する「あかしSDGs推進審議会」において、市民参画のもとで推進状況の確認を行います。

### (2) 現時点の推進状況

- ① まちの住みやすさや愛着度、定住意向についての市民意識の分析  
まちづくり市民意識調査を2025年1月頃に実施予定であり、その結果を踏まえて2025 年度に分析を行います。

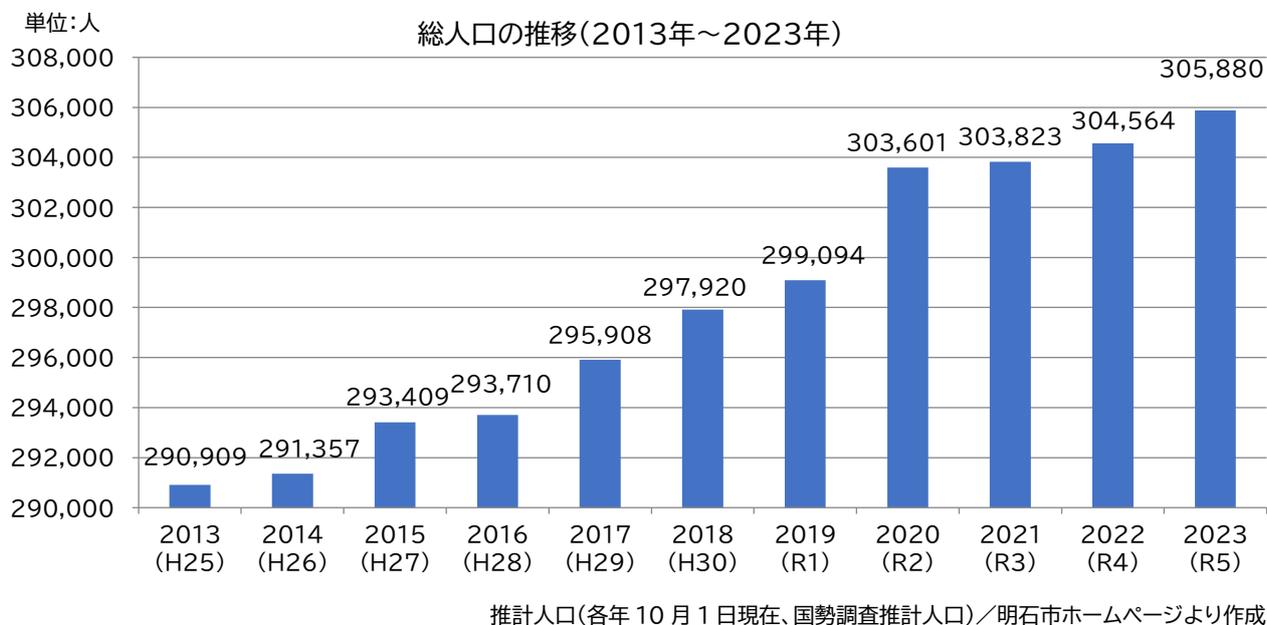
[数値目標:住みやすいと思う人の割合]

当初値(2019 年)	目標値(2025 年)	目標値(2030 年)
91.2%	95%	100%

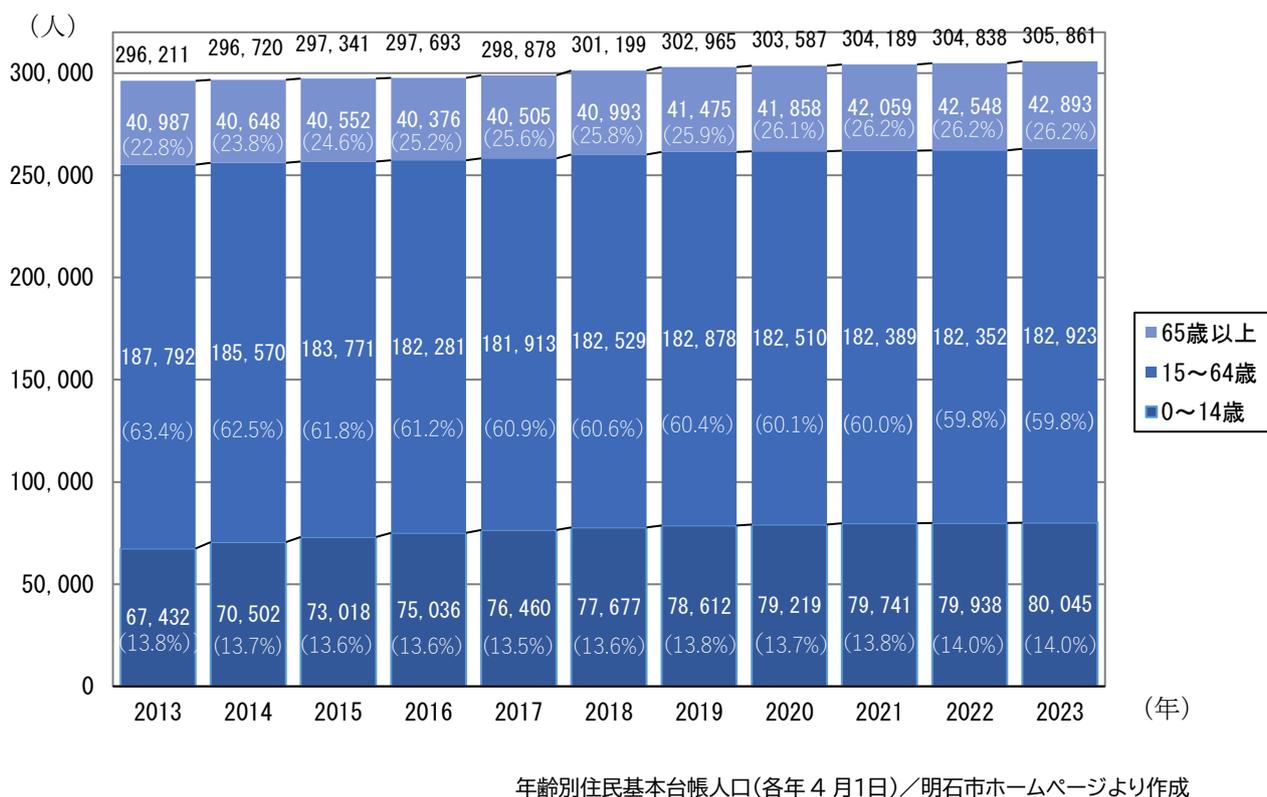
- ② 目標人口の実現に向けた人口動向の分析  
ア 人口
  - ・ 総人口は、2013 年から連続して増加しており、2023 年 10 月1日現在で 305,880 人と目標人口を大きく上回っています(図1)。

- ・ 年齢区分別に見ると生産年齢人口(15～64 歳)の人数・割合が低減するとともに、老年人口(65 歳以上)が遡増しており、全国的な傾向と比べると緩やかですが高齢化が進んでいます。一方で、年少人口(14 歳以下)の人数・割合は 2015 年から増加傾向にあります(図2、表1)。

【図1】 総人口



【図2】 年齢3区分別人口



【表 1】国・兵庫県・明石市の年齢3区分別人口(割合)

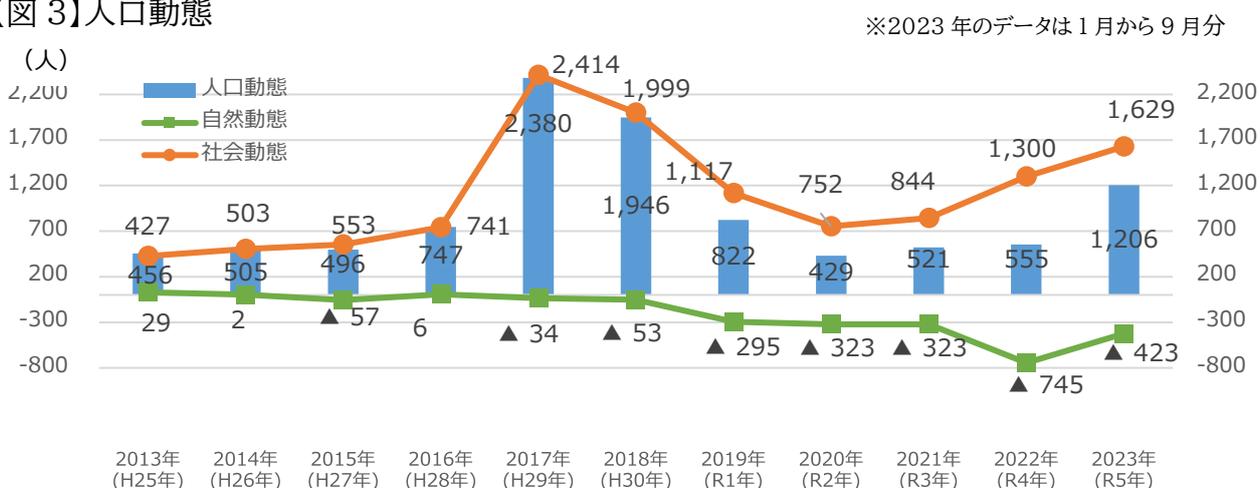
	国	兵庫県	明石市
65歳以上	29.0%	29.8%	26.2%
15～64歳	59.4%	58.3%	59.8%
15歳未満	11.6%	11.9%	14.0%

国・兵庫県:年齢3区分別人口の割合(2022年10月1日)／総務省ホームページより作成、  
明石市:年齢別住民基本台帳人口(2022年4月1日)／明石市ホームページより作成

イ 人口動態

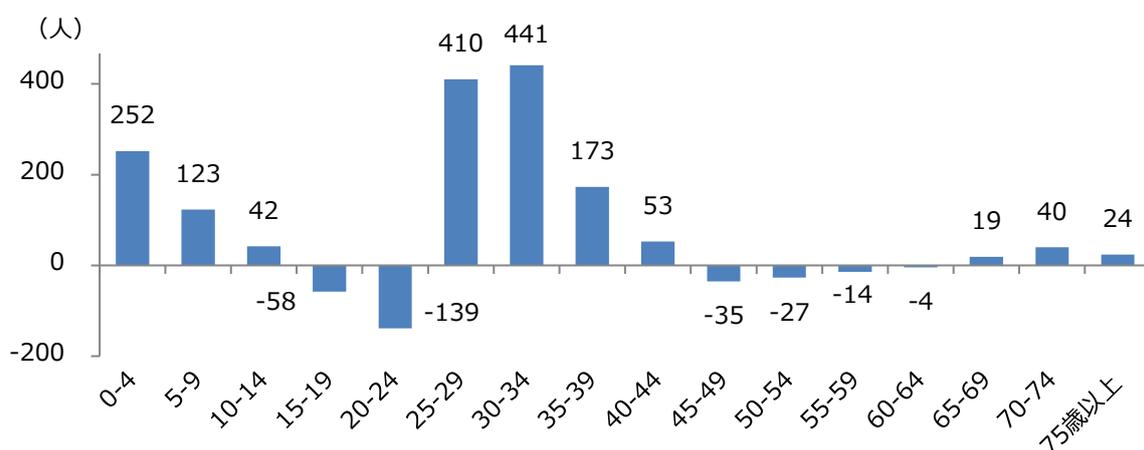
- ・ 人口動態は、2013年から連続して増加となっています。
- ・ 自然動態(出生－死亡)は、高齢者の増加に伴う死亡者数の増加により、2017年から連続して減少となっています(図3)。
- ・ 社会動態(転入－転出)は、2013年から連続して転入超過となっており、特に0～9歳と25～39歳の子育て世代の転入超過が顕著です(図3、図4)。
- ・ 出生数と合計特殊出生率については、2022年に国においては両数値とも過去最低に、また、県においては出生数が過去最低となり、本市においても2021年と比べ、両数値とも減少しました(図5、6)。これは、新型コロナウイルスの感染拡大後に婚姻数が減少したことが影響したと考えられます。

【図 3】人口動態



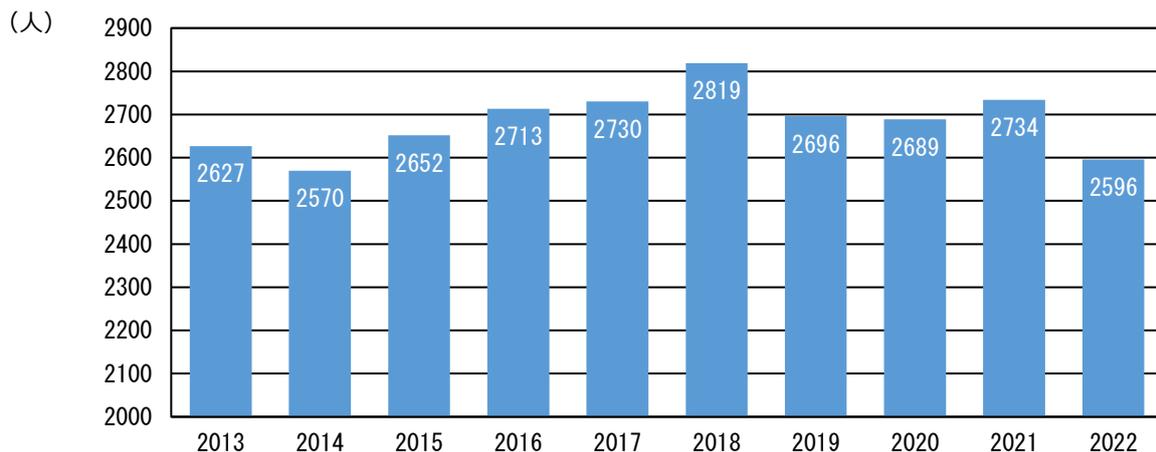
人口の動き(各年中の人口動態)／明石市ホームページより作成

【図 4】5歳年齢別社会動態(2022年1月～2022年12月)



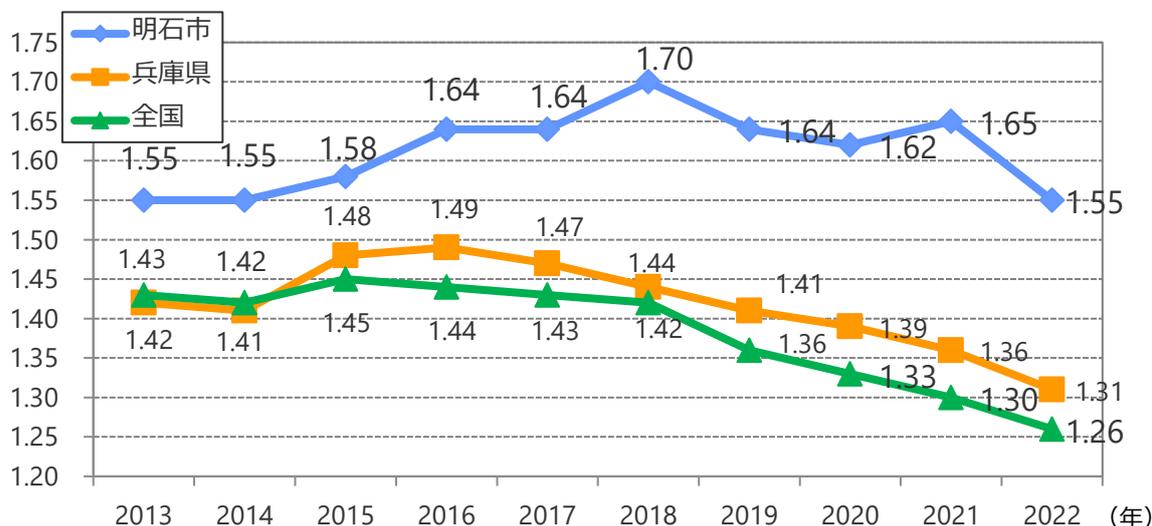
人口の動き(各年中の人口動態)／明石市ホームページより作成

【図5】出生数



人口の動き(各年中の人口動態)／明石市ホームページより作成 (年)

【図6】合計特殊出生率



人口動態調査／厚生労働省ホームページ、  
保健統計年報・合計特殊出生率、人口動態調査の数値／兵庫県ホームページなどをもとに市で算出

③ 主な新規・拡充施策の実施状況とKPIの進捗状況

- ・ 前期戦略計画に定める施策展開の5つの柱及び柱ごとの具体的な展開の方向に基づき、2022年度以降に実施した主な新規・拡充施策の概要と、各施策展開に関するKPIの進捗度を取りまとめています。
- ・ KPIの進捗度については、2025年度の目標値に対する現在の進捗状況に応じて、次のとおり3段階で評価しています。
  - ◎：目標値を達成しているもの
  - ：目標値に向けて当初値から改善しているもの
  - △：目標値に向けて当初値から改善していないもの
- ・ あわせて、効率的・効果的な行政運営に向けて 2022年度以降に実施した主な新規・拡充施策について取りまとめています。

## 施策展開の柱1 豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める

豊かな自然と共生し、自然と調和の取れたまちづくりを進めることで、より快適で持続可能な暮らしを実現します。そのため、脱炭素社会や循環型社会の実現に向けた取組を進めるほか、豊かな自然環境の保全と活用に取り組みます。

展開の方向1	脱炭素社会の実現
展開の方向2	循環型社会の実現
展開の方向3	自然環境の保全と活用

### 【2022～2023年度の主な新規・拡充施策】

#### 1 脱炭素社会の実現

- ◆再生可能エネルギー利用の促進
- ◆脱炭素の暮らし・まちづくりの推進
  - ・家庭用の燃料電池及び蓄電池への補助制度に、2022年度からは ZEH 住宅、太陽光発電、高断熱窓を追加するとともに、事業者向けの太陽光発電への補助を開始した。
  - ・公共施設での照明設備のLED化について、2022年度に教育施設(小・中学校、特別養護学校、明石商業高等学校、幼稚園・保育施設等 116 施設)を実施し、2023年度にはその他の施設(北庁舎、市営住宅、消防施設等予定 82 施設)に取り組んでいる。

#### 2 循環型社会の実現

- ◆持続可能なごみ処理体制の確立
  - ・新ごみ処理施設整備については、燃やせるごみの減量及びリサイクル率の向上に向けて、容器包装プラスチック及び製品プラスチックの分別にも対応した施設として計画を進めている。
- ◆ごみ減量施策の推進
  - ・食品ロスの削減に向けてコープこうべと連携して市内5店舗にフードドライブ専用ボックスを常設し、子ども食堂や生活困窮者へ食品を提供している。(2022年度 3,885kg)

#### 3 自然環境の保全と活用

- ◆豊かな海づくりの推進
  - ・2022年度は「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」を開催し、集中的な啓発を行ったほか、新たに栄養塩類※のもととなる窒素やリンを含んだ有機肥料等を漁場へ投入する取組を開始した。

※栄養塩類・・・海水中に溶け込んでいる物質で、海では植物プランクトンやノリなど生き物の成長に必要なもの。瀬戸内海では栄養塩類(窒素やリン等)が不足し、海の貧栄養化が進行している。
- ◆緑の保全と活用
  - ・ため池を活用して、「みんなにやさしい運動公園」をコンセプトに、ユニバーサル遊具を設置したインクルーシブな広場のある「17号池魚住みんな公園」を整備した。(2023年4月末オープン)

KPI	当初値	現状値	目標値	進捗度
温室効果ガス排出量(2013年度比)	11.9%の減 (2018年)	8.4%の減 (2020年)	30%の減 (2025年)	△
ごみの排出量 (1人1日当たり)	959g/人・日 (2019年度)	867g/人・日 (2022年度)	915g/人・日 (2025年度)	◎
市民一人当たりの 公園面積	7.14㎡/人 (2021年4月1日)	7.14㎡/人 (2023年4月1日)	7.35㎡/人 (2026年4月1日)	△

## 施策展開の柱 2

## 笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる

誰もが住み慣れた地域で自分らしく、社会の一員として生きがいを持って暮らし続けられる笑顔あふれる共生社会づくりを進めます。そのため、支え合う地域社会づくりのほか、多様性を認め合い、年齢、性別、国籍、障害などに関わらず自分らしく生きることができる社会づくりや、健康・長寿の推進に取り組めます。

展開の方向1	支え合う地域づくり
展開の方向2	自分らしく生きることができる社会づくり
展開の方向3	健康・長寿の推進

### 【2022～2023年度の主な新規・拡充施策】

#### 1 支え合う地域づくり

##### ◆小学校区単位の協働のまちづくりの推進

・各小学校区のビジョンや方策を定めた「まちづくり計画書」の策定を通じて、まちづくり協議会の組織力強化を図っている。(2023年度予定:大観・貴崎・二見・谷八木・二見西の5小学校区)

##### ◆地域における支え手の育成

・地域課題の解決や共同利益の実現につながる市民活動の新規立ち上げ・継続・拡大を応援するため、2023年度から既存の助成金制度を「あかし市民活動応援助成金」へとリニューアルし、拡充した。(2023年度:43団体)

#### 2 自分らしく生きることができる社会づくり

##### ◆認知症の人や家族への支援の充実

・オレンジサポーター(認知症サポーター)養成講座について、2022年度は企業や地域団体等からの依頼による開催に加え、一般市民向けのオンライン講座や毎月の地区別講座、小・中・高校 11校の出前授業として開催した。

##### ◆防災、教育、家庭・社会、職場、意思決定過程の面からのジェンダー平等の推進

・「あかしジェンダー平等の推進に関する条例」を2023年4月に施行し、ジェンダー教育推進校(9校)での研修や、官民連携による男性の家事・育児参画を促進するイベント等を実施している。また、生理用品サポート事業として市内41施設(予定)において生理用品を配布する。

#### 3 健康・長寿の推進

##### ◆高齢者の活躍支援

・2023年度から地域高齢者の見守り支援を行う高年クラブへ助成するほか、高齢者がフレイル(加齢による心身の衰え)サポーターとして地域の介護予防に取り組むことを支援している。

##### ◆健康意識の啓発と地域での健康づくりの推進

・特定健診の結果により生活習慣病のハイリスク者に該当する方を対象に、ICT(スマホやスマートウォッチ)を活用したデータ分析に基づく保健指導等を行っている。(2022年度24名、2023年度36名)

KPI	当初値	現状値	目標値	進捗度
市と協働のまちづくり協定締結した小学校区数	15校区 (2020年度)	17校区 (2023年度)	22校区 (2025年度)	○
オレンジサポーター養成者数	13,428人 (2020年度末現在)	21,033人 (2022年度末現在)	30,000人 (2025年度末現在)	○
平均寿命と健康寿命の差	男性:1.35年 女性:3.04年 (2020年度)	男性:1.32年 女性:2.93年 (2021年度)	男性:1.35年より縮小 女性:3.04年より縮小 (2025年度)	◎

### 施策展開の柱3

### 子どもの育ちをまちのみんなで支える

将来のまちづくりの担い手であり、まちの未来であるこどもの育ちを社会全体で支えます。そのため、安心して子育てができる環境の整備のほか、一人ひとりに応じた質の高い教育の推進や、こどもの状況に応じた適切な支援の充実に取り組みます。

展開の方向1	安心して子育てができる環境の整備
展開の方向2	一人ひとりに応じた質の高い教育の推進
展開の方向3	こどもの状況に応じた適切な支援

#### 【2022～2023年度の主な新規・拡充施策】

##### 1 安心して子育てができる環境の整備

###### ◆子育てと仕事の両立のための環境整備

・待機児童対策として、2022年度は保育施設の新設等を行い、受け入れ枠213人の拡充を行った。2023年度は約230人の受け入れ枠の拡充計画を立て、施設整備を行うとともに、保育士確保施策を継続する。

###### ◆子育てにかかる無料化施策等の推進

・5つの無料化(18歳までのこども医療費無償化・第2子以降の保育料・副食費の無料化、おむつ定期便、中学校給食の無償化、公共施設の入場料無料)に加え、2023年度から市独自の取組として新たに高校生世代に児童手当(月額5,000円)を支給している。

##### 2 一人ひとりに応じた質の高い教育の推進

###### ◆インクルーシブ教育システムの構築

・特別な教育的ニーズのある児童生徒が安心して学び、「質の高い教育」が受けられるよう、最適な指導計画等の作成や日々の指導等を一体的に管理する「個別の学び支援システム」を2022年度から小・中・養護学校に導入した。

###### ◆学校施設及び学習環境の整備

・児童数の増加に伴い、2023年度は谷八木小学校での仮設校舎の整備のほか、藤江小学校での児童クラブ棟の整備を進めるとともに、バリアフリー推進の一環として学校施設におけるエレベーター設置やトイレ改修等に順次取り組んでいる。

##### 3 こどもの状況に応じた適切な支援

###### ◆「こどもの居場所」づくりの推進

・こども食堂について、2023年度はウィズコロナを踏まえ、テイクアウト型は食事型に戻せるようきめ細やかな運営支援を行っている。(2023年9月末時点の設置数:51か所)

###### ◆こどもの夢応援プロジェクトの推進(給付型奨学金、学習・生活サポート)

・入学準備金(30万上限)と在学時支援金(毎月1万円)を給付するとともに、学習支援及び学校生活支援(相談支援)を行っている。(2023年度予定:入学準備金211名、在学時支援金512名)

KPI	当初値	現状値	目標値	進捗度
出生数	2,692人 (2020年)	2,596人 (2022年)	3,000人 (2025年)	△
授業がよくわかると答える児童生徒の割合	78.1% (2016～2021年度の平均)	78.3% (2023年度の平均)	85.0% (2025年度)	○
こどもの居場所・気づきの拠点となるこども食堂の実施回数	541回 (2019年度)	597回 (2022年度)	800回 (2025年度)	○

## 施策展開の柱4

## 安全・安心を支える生活基盤を強化する

市民の暮らしや経済活動を支える、持続可能で安全・安心な生活基盤を整えます。そのため、防災・感染症対策の強化や、日常の安全・安心の更なる確保のほか、誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備に取り組みます。

展開の方向1	防災・感染症対策の強化
展開の方向2	日常の安全・安心の確保
展開の方向3	誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備

### 【2022～2023年度の主な新規・拡充施策】

#### 1 防災・感染症対策の強化

##### ◆地域防災力・災害対応力の向上

・災害時要配慮者への個別支援計画について、地域の自治会や民生児童委員、福祉専門職等と協力して、作成を進めている。(2024年3月末の計画策定予定:累計250件)

##### ◆避難所の充実

・高齢者・障害者・女性・乳幼児等が安心して避難所へ避難できるよう、福祉避難所を拡充するとともに、新たに授乳・着替えスペースとなるプライバシーパーテーションや抱っこひも等を備蓄している。(2024年3月末の福祉避難所予定:30施設)

#### 2 日常の安全・安心の確保

##### ◆消防・救急体制の強化

・中崎分署の建替について、2027年度の供用開始に向け、2023年度から基本設計に着手した。また、消防指令業務を迅速かつ適切に行うため、2023年度に高機能消防指令センターの更新工事を実施している。

##### ◆海岸の安全対策の充実

・2022年度から海岸沿いの監視カメラにより水上オートバイ等の危険運転や遊泳者の利用状況を見守るとともに、遊泳者安全区域を4か所指定し、水上オートバイ等の侵入防止フロートを設置している。

#### 3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備

##### ◆市内全域の均衡ある発展を目指した取組

・西明石活性化プロジェクトについては、JR西日本の駅ビル・新改札のオープンに合わせ、2026年の駅前広場、駐輪場及び(仮称)西明石地域交流センターの供用開始に向けて、同センターの設計等に取り組んでいる。

##### ◆安全で利便性の高い幹線道路・橋梁の整備

・幹線道路について、江井ヶ島松陰新田線と山手環状線(大窪工区)の2026年度完成を目指し、整備を進めている。

KPI	当初値	現状値	目標値	進捗度
災害時要配慮者への個別支援計画数	25件 (2020年度)	76件 (2022年度)	500件 (2025年度)	○
交通事故死傷者数	1,100人 (2020年)	1,096人 (2022年)	800人 (2025年)	○
バリアフリー対策済の駅数	11駅 (2020年度)	12駅 (2023年度)	13駅 (2025年度)	○

## 施策展開の柱5

## まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す

まちの宝物を生かし、更に、新たな魅力を生み出して、定住・交流人口を増やすとともに、多様な働き方を実現できる雇用環境づくりや地域経済の循環を推進し、まちの元気につなげます。そのため、地域産業の振興のほか、文化の薫るまちの推進や、まちの魅力を生かした賑わいの創出に取り組みます。

展開の方向1	地域産業の振興
展開の方向2	豊かな心を育む文化・芸術の推進
展開の方向3	まちの魅力を生かした賑わいの創出

### 【2022～2023年度の主な新規・拡充施策】

#### 1 地域産業の振興

##### ◆商工業の振興

・工場立地法の対象工場(敷地面積 9,000 m<sup>2</sup>以上又は建築面積 3,000 m<sup>2</sup>以上の製造業等)について、2022年5月から条例により緑地面積率等を緩和した。

##### ◆多様な働き方の支援

・2023年度はハローワークや商工会議所と連携し、多様な働き方セミナーや就職氷河期世代活躍支援セミナー、障害者雇用セミナー等を実施している。

#### 2 豊かな心を育む文化・芸術の推進

##### ◆本のまち明石の推進

・2022年度に西部図書館での読書バリアフリーコーナーの新設など、読書バリアフリー環境の充実を図ったほか、企業版ふるさと納税を活用し、日新信用金庫の市内10店舗に「まちなか図書館」を、ウィズあかしにつながる本棚「hito-haco」を90箱設置した。

##### ◆歴史のまち明石の推進

・2022年に開設した魚住文化財収蔵庫を活用し、市内に分散して保管していた文化財を適切な環境で保存するとともに、展示室で企画展を実施し、地域の歴史・文化の普及啓発を図った。

#### 3 まちの魅力を生かした賑わいの創出

##### ◆時のまち明石の推進

・2023年10月にプラネタリウム100周年全国一斉イベントを実施し、天文科学館のプラネタリウムのPRをするとともに、時のまち明石を全国・全世界に発信した。

##### ◆大型イベントと連携した賑わいの創出

・兵庫デスティネーションキャンペーンについて、2023年7月から9月にJR、県、県内自治体及び事業者が連携して、「兵庫テロワール\*旅」をテーマに実施しており、その中で活魚セリ市の見学など、明石産品のPR等を行い、賑わいの創出を図った。

※テロワール…「土地の個性」を意味する言葉

KPI	当初値	現状値	目標値	進捗度
市内総生産	11,876億円 (2019年度)	11,678億円/ 2019年度比-1.7% (2020年度)	2019年度比+3.6% (2025年度)	△
図書館等での本の貸出冊数	3,005,919冊 (2019年度)	2,793,683冊 (2022年度)	320万冊 (2025年度)	△
天文科学館入館者数	116,711人 (2019年度)	104,630人 (2022年度)	125,000人 (2025年度)	△

推進計画における行政運営の基本姿勢に基づき、市民に最も身近な基礎自治体として、市民ニーズを的確に捉え、市民主体のまちづくりの下、新たな生活様式への転換などにも柔軟に対応しつつ、災害や新型コロナウイルスなど非常時にも備えながら、重点的な施策を着実に推進するとともに、人材・財源などの限られた行政資源を自らの判断と責任で、真に必要性の高い施策に重点的に配分して実施できるよう、持続可能な行政運営に取り組みます。

① SDGsの更なる推進

② 持続可能で自立した行政経営(持続可能な公共サービス体制の実現、健全財政の推進)

## 【2022～2023 年度の主な新規・拡充施策】

### 1 SDGsの更なる推進

#### ◆市民等へのSDGsの周知・啓発

・2023 年 9 月に「あかしSDGsウィーク」を開催し、誰もが参加できる取組として市内の海岸清掃やSDGsカードゲームワークショップの実施等、集中的な周知・啓発を行った。

#### ◆市民団体、教育機関、事業者等との連携の推進

・あかしSDGsパートナーズ登録団体<sup>※</sup>に対して、2022 年度はSDGsの積極的な取組を促進・支援する「あかしSDGs推進助成金」を交付(15 事業)したほか、2023 年度からあかしSDGsアドバイザー派遣制度を開始し、個別支援を行っている。

※あかしSDGsパートナーズ登録団体・・・市民団体や事業者などのパートナーシップにより、SDGs未来安心都市・明石を実現するため、市内に活動拠点を有し、SDGsに積極的に取り組む各種団体・学校・事業者などを対象とした登録制度。(2023 年 10 月時点の登録団体数:148団体)

### 2 持続可能で自立した行政経営

#### ◆自治体DX推進計画に沿った業務の効率化

・2022 年度は明石市行政 DX 推進方針を策定し、10 月から証明書のコンビニ交付を開始するとともに、業務の効率化のために AI 音声認識システムの導入や行政文書の電子化に取り組んだ。2023 年度は汎用的なオンライン申請システムを導入し、順次電子申請を進めている。

#### ◆市役所新庁舎の整備

・2027 年度の供用開始に向けて、「すべての人にやさしいスリムでスマートな庁舎」を基本理念とし、防災面、財政面、環境面等を配慮した上で、ワークショップやアンケートなど市民参画を確保しながら2023 年度中の実施設計完了に向けて取り組んでいる。